

日向市図書館複合施設整備基本構想に対するパブリックコメントの実施結果

- 実施期間 令和8年2月27日（金曜日）～令和8年3月18日（水曜日）まで
- 意見提出方法 持参、郵送、ファックス、電子メール、WEBフォーム
- 提出数、意見数 提出数 3通 意見数 10件

No	提出された意見の内容	意見に対する市の考え方
1	日向ラボ・ラボにも何回か参加させていただきました。構想の段階から市民参画で進めていることがまず素晴らしいと思います。どの世代にとっても、何らかの居場所がそこにあること。そこに行けば、何らかの異世代間の交流があることがとても大事だと思います。人との繋がりがあある場所ということが、今後はとても重要になってくると思います。カフェ（飲食の場）は人が気楽に集まりやすい空間なので、広さ、雰囲気、内容等十分に考えていただき、充実してエリアにして欲しい。	基本構想では、図書館複合施設を「市民が集まるひなたリビング」と位置づけ、世代や立場を問わず安心して過ごせる居場所と、交流が生まれる環境づくりを重視しています。カフェ等の飲食空間についても、くつろぎ・交流の場として重要な機能と捉えており、広さや雰囲気、運営方法について、令和8年度に策定する基本計画で具体的に検討していきます。
2	新施設が完成するまで、5、6年はかかるので、それまでに、基本構想にあるような視点で、可能な限り既存の図書館の充実を図って欲しい。現在、日向市立図書館で実証実験（飲食可エリア、おしゃべり可など）が行われているが、他の図書館でも、可能な限り、行って欲しい。例えば、カフェの代わりに、キッチンカーを週末には配置するとか。図書館スタッフの意識はとても重要。研修等で共通理解を図って欲しい。	新施設の完成を待たずに、既存施設において改善可能な点は積極的に取り組み、より多くの市民が快適に利用できる図書館を目指して、関係者が連携し工夫を重ねています。ハード面だけでなくソフト面の充実にも力を入れており、特に図書館スタッフの意識醸成やスキル向上を重要視すべく、多くの研修の機会も設けています。また、市立図書館の取組が地域の公民館図書室等にも良い影響を与え、地域全体の図書館サービスの向上につながることも目指し取り組んでいきます。
3	あらゆる世代、利便性という部分で、いわゆる「交通弱者」と言われる方々への具体的な配慮と手立てが見えてこない。駐車場の確保はとても大切ではあるものの、「車ありき」ではない考える多様な方策が述べられていない。日向市のサードプレイスとしての文化拠点として位置付けるのではあるならば、今後充実するであろう他の文化施設との交通ネットワークが必要だと考える。日向ラボ・ラボに集まった方々は、自家用車を使える方々なので、施設整備と並行した交通利便性を高める工夫を求めたい。駅やバス停から歩いて3～5分以内の環境整備が、世代交流の有効策になるのではないだろうか。	駐車場確保と併せて、公共交通や徒歩といった多様な来館手段を確保することは重要だと認識しています。基本構想でも公共交通の利用しやすさやアクセシビリティの向上を重要な視点としており、候補地は駅から徒歩圏内、バス停から近い立地であることも踏まえて決定しています。今後、令和8年度に策定する基本計画において、公共交通との接続性向上や歩行者動線の安全性についても検討していきます。

4	<p>施設道路という面からは、当然考えられておられると思うが、バスやタクシーの巡回できる県立美術館の東側のような工夫も必要であろう。</p>	<p>図書館複合施設は子育て世代から高齢者まで幅広い利用を想定しており、バスやタクシー等の安全な乗降環境の確保は重要な検討事項です。令和8年度に策定する基本計画において、敷地内外の交通動線を整理し、乗降場や転回、歩行者との交錯防止等を含めた安全で分かりやすい交通計画を検討していきます。</p>
5	<p>日向市は人権尊重都市を宣言している市である。人権に係る市の部署、社会福祉協議会の出先事務所は、他県の施設にもみられるように設置してほしい。日向市のダイバーシティ構想の具現化につながると考える。ぜひ実現させてほしい。</p>	<p>基本構想では、誰もが安心して利用できるサードプレイスとして、バリアフリーや誰もが利用しやすい環境を重視しています。施設内にどのような相談機能・窓口機能を配置するかについては、既存の行政・相談体制との役割分担や施設の運営方法、必要面積等を踏まえながら、令和8年度に策定する基本計画において、関係部署と連携しながら検討していきます。</p>
6	<p>「新しい図書館を語る会」は、どのように選出されたのか分からないが、日向ラボ・ラボの参加者の中から選出してほしかった。他県の図書館でも市民目線から図書館を支える組織やシステムをとっているところがある。今後は、市立図書館の市民による運営協議会（友の会）のような市民個人が希望し組織するものをつくり、常に図書館の在り方について問う連携組織をつくることをぜひしてほしい。外部評価を市民が常時することで、より市民のサードプレイスとなりうる。日向ラボ・ラボを今後も明確な位置づけをして、先を見越したイノベーションしつづける施設になってほしいと考える。</p>	<p>基本構想の策定にあたっては、多様な立場の意見を把握するため、関係団体との意見交換の場と、広く市民が参加できる日向ラボ・ラボや図書館利用者アンケート等の取組を併せて実施してきました。今後も共創の取組を重要な視点に置き、取り組んでいきます。また、市民が継続的に図書館運営に関わる仕組みについても、施設完成後を見据えて基本計画・運営計画の検討の中で研究していきます。</p>
7	<p>日向市の弱さは、中心部と周辺各地区、特に美々津・寺迫などの南部地区とのネットワークの脆弱さである。偏りを感じる部分がある。例えば、自治公民館と図書館をネットワークでつなげることも考えてほしい。それは自治会の加入減の歯止めや防災視点でも重要。「中心部」だけの活性化策に偏らない考えで進めて行ってほしいと思う。</p>	<p>市全域で学びや交流、文化活動を支える観点から、中心市街地と各地域の連携は重要だと認識しています。基本構想でも、学校図書や公民館図書室等との連携、デジタル活用による読書推進などを方向性として整理しています。令和8年度に策定する基本計画において、移動図書館やデジタルサービス、地域拠点との連携強化など、市内全域にサービスが届く仕組みについて検討していきます。</p>

8	日向市は公共施設の延床面積の三割削減を目指しているそうだが、図書館複合施設建設で延床面積が逆に増える理由は何か。	<p>本市の公共施設マネジメントでは、将来世代に負担を残さないため、「安全・安心の確保」「総量の最適化」「ライフサイクルコストの縮減」を基本に、施設の集約・複合化・転用等を進め、保有量の適正化を図ることとしています。</p> <p>図書館複合施設は、図書館機能に加え、子育て支援、生涯学習・市民活動等の機能を集約・複合化することにより、分散している機能を一体的に提供し、利便性とサービスの向上を図るものです。</p> <p>そのため、個別施設として見た場合には新施設の延床面積が増える場合がありますが、既存施設の取り壊しを含む機能移転や跡地・既存建物の利活用の検討と併せて、公共施設全体としての最適化につなげる考えです。今後、令和8年度に策定する基本計画において、施設規模や既存施設の整理方針の詳細を精査します。</p>
9	ワークショップ参加者の声ばかり優先し既存の図書館利用者の声が蔑ろにされているような印象をうけるが、図書館を静かに利用したいなどの意見は取り入れられるのか（子どもの遊戯施設との共存や聴覚が敏感な人への配慮など）。	<p>基本構想の策定にあたっては、ワークショップ等に加え、図書館アンケート、関係団体との意見交換、日向ラボ・ラボ等、多様な手法により幅広い市民の意見を把握しており、特定の参加者の意見のみを優先するものではありません。</p> <p>また、新施設では「にぎわい」だけでなく、読書や学習に集中できる環境の確保も重要であると認識しており、静かな空間と、会話や活動を想定した空間をゾーニング等により適切に分けることを基本に検討します。</p> <p>あわせて、聴覚が敏感な方を含め、誰もが安心して利用できるよう、環境配慮や案内表示、利用ルールの設定等について、基本計画・設計段階で具体的に検討し、配慮に努めます。</p>
10	図書館でおやつなどを食べることで本の汚損に繋がらないか。汚したまま本棚に返すことで責任の所在がわからなくなるのでは？	<p>現在、市立図書館では「飲食OKな図書館」の実現に向けた実証実験を行っており、館内での会話や飲食に関し、来館された方の意見を集め、より良い図書館になるために必要なことを検討しています。</p> <p>具体的なルールや運用方法は、基本計画および管理運営計画の検討の中で精査します。</p>